

座長のことば

ユース世代に対する包括的なメンタルヘルスケア 東邦大学における取り組み

水野 雅文

東邦大学医学部精神神経医学講座教授

精神疾患は、その多くが思春期ないし青年期前期に発症する。精神疾患に罹患する者のうち、75%程度は25歳前に発症しているというデータさえある。とりわけ、統合失調症を初めとする慢性化しやすい精神疾患は、いったん罹患すると、学業の中断や就業を初めとする社会参加の遅延、家族や仲間など集団における社会的スキル不足など、社会生活上のさまざまな困難を抱え込んでしまうことがある。

治療を阻む要素は多岐にわたるが、治療開始の遅れと病識の乏しさによる治療維持の困難、さらに精神疾患に罹患したという自己に対するスティグマも自己評価の低下につながり、速やかな回復をいっそう困難なものにしている。これらを克服していくために、東邦大学医療センター大森病院精神神経科では10年前から15～30歳の若者に特化した精神科デイケア「イルボスコ」と、精神病発症危険状態(at-risk mental state: ARMS)や初回エピソード統合失調症を対象とする専門外来「ユースクリニック」を開設し、若者にとって受診しやすく継続的な治療が可能な環境の整備を進めてきた。このようなサービスは国内では珍しく、特にイルボスコは、平成27年5月に落成した新7号館1階に移り、地域の中でスティグマなくアクセスできる新しい精神科治療モデルとして多数の見学者の訪問も受けている。

イルボスコやユースクリニックの治療プログラムは、か

つて統合失調症の地域ケアモデルとしてイタリアを中心に活発に展開されたIan RH Falloon博士によるOptimal Treatment Project (OTP)をモデルとして運営されている。OTPでは、サービスモデルとして、①早期の発見、②家族を含めた多職種チーム、③持続的なアセスメント、④積極的なケアマネジメント、⑤双方向性の心理教育、また治療モデルとして、①少量単剤の非定型抗精神病薬による治療、②ストレスマネジメント、③認知行動療法、④就労支援を行う包括的な治療アプローチの重要性が強調され、それぞれエビデンスに基づいた治療プログラムが用意されている。イルボスコではこれらを日本の若者向けにアレンジして実施しており、これまで良好な治療成果を収めてきた。

今回のシンポジウムでは、ユース世代の若者に対するこれらの包括的なアプローチの実際を、総論、復学支援、地域連携、認知機能訓練の実際という観点から論じることとした。

実りあるシンポジウムが開催できたことをご報告しつつ、この場をお借りして、ご来聴頂いた皆さま、準備の労を頂いた皆さまに心より感謝申し上げます。

DOI: 10.14994/tohoigaku.2016.r034